七飯町都市計画
マスタープラン

北海道新幹線 H５系車両

平成 26 年 10 月

七　飯　町

目　　次

はじめに …… 1
まちの概要 …… 3

全体構想

1. 七飯町の将来都市像 …… 8
　1－1. 七飯町の都市計画区域の位置 …… 8
　1－2. 都市づくりの視点 …… 9
　1－3. 七飯町の将来都市像 …… 10

2. 都市計画の基本目標 …… 11
　2－1. 都市計画の基本目標 …… 11
　2－2. 将来目標人口フレーム …… 15

3. 将来都市構想 …… 16
　3－1. 骨格・拠点・都市形成軸の方針 …… 16
　3－2. 将来市街地の想定 …… 29
　3－3. 土地利用の方針 …… 31
　3－4. 市街地開発の方針 …… 33

4. 都市施設の配置構想及び整備プログラム …… 35
　4－1. 交通施設 …… 35
　4－2. 公園・緑地 …… 38
　4－3. 上水道 …… 40
　4－4. 河川及び下水道 …… 42
　4－5. その他の公共公益施設 …… 45

地域別構想

1. 地域別構想について …… 47
　1－1. 目的 …… 47
　1－2. 地域区分 …… 47

2. 地域別構想 …… 48
　2－1. 地域の現状特性 …… 48
　2－2. 地域の将来の方向性 …… 51

計画の実現に向けて …… 59

はじめに

都市計画マスタープランの役割

平成 4 年に都市計画法が改正され都市計画を進めるうえでの基本的な方針を明らかにする都市計画法第 18 条の 2（市町村の都市計画に関する基本的な方針）の策定が市町村に義務づけられました。

都市計画マスタープランの役割は次のとおりです。

・住民にもっとも身近にある町が、創意工夫と住民参加により将来のまちづくりの方針を明らかにします。

・都市計画の決定・変更の指針となり、これに則して、住民本位の身近なまちづくりが進められます。

都市計画マスタープランの構成

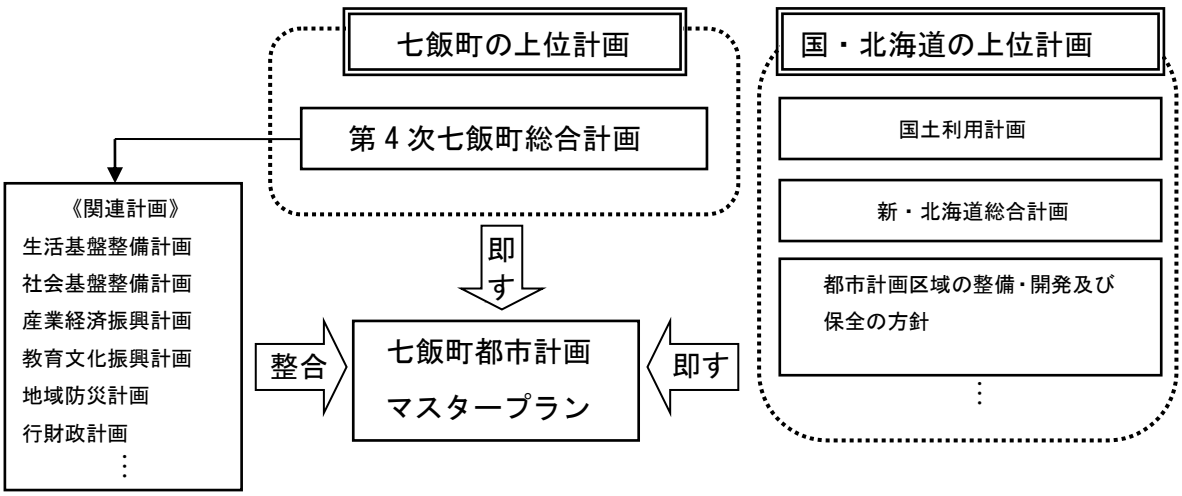
・全体構想　：　各部門別の方針を総合的に示します。

・地域別構想　：　全体構想との整合性を図りながら地域別の地域像や施策を示します。

都市計画マスタープランの位置付け

都市計画マスタープランの役割は前述のとおりですが、総合計画に即し、都市計画の分野の行政運営の方針を示すことによって各種中間計画、分野別計画の物的事項を横断的に都市計画に連携・整合を反映するものとして位置づけられます。

また、都市計画はおおむね 20 年後の都市の姿を展望しつつ、おおむね 10 年間の都市計画の具体的な方針となることから、第 4 次七飯町総合計画（平成 18 年～平成 27 年）の具現化と、それ以後の総合計画の橋渡し的性格を有するものとして見直しを実施し、目標年は平成 32 年とします。



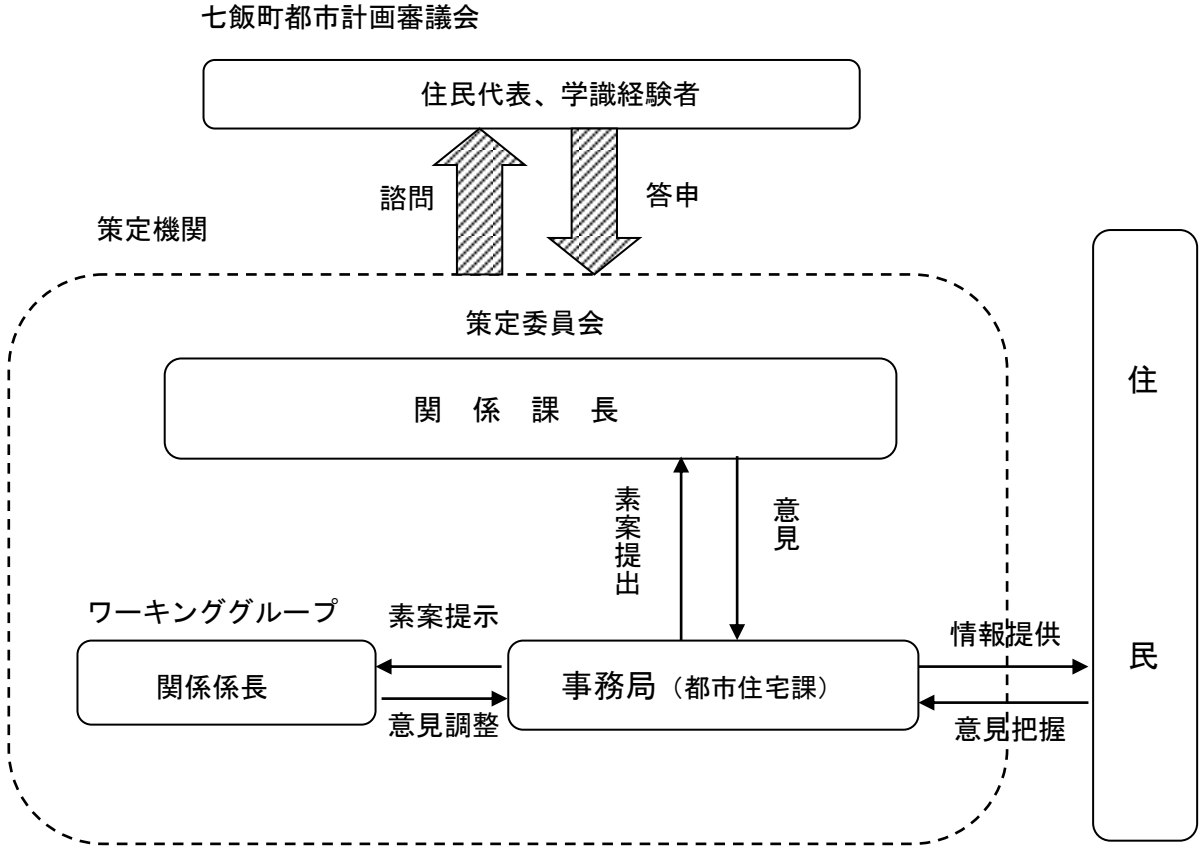
都市計画マスタープランの対象区域

都市計画マスタープランの対象区域は、函館圏都市計画区域のうち、七飯町の区域とします。また、平成 19 年に準都市計画区域に指定した区域（上藤城・藤城・峠下・仁山の一部地域）も対象区域に含むこととします。

都市計画マスタープランの策定方法

現在の都市計画マスタープランは平成 15 年 3 月に策定されましたが、近年の本町を取り巻く社会経済状況はめまぐるしく変化していることや、平成 18 年に策定された「第 4 次七飯町総合計画」における町の将来像や人口推計等に基づいた見直しを進める必要が出てきました。一方で、北海道が定める「新・北海道総合計画」（平成 20 年 3 月）などの上位計画と併せて本都市計画マスタープランは、以下のようなフローに基づいて見直します。

七飯町都市計画マスタープラン見直し策定フロー



まちの概要

1.位　置

七飯町は、北海道渡島半島の南部に位置し、北海道の表玄関函館市から約 16 ㎞の距離にあり、東経 140 度 41 分 39 秒、北緯 41 度 53 分 43 秒の役場所在地を中心に、216.61 ㎢（平成元年 11 月 10 日官報公告）の面積を有する町です。

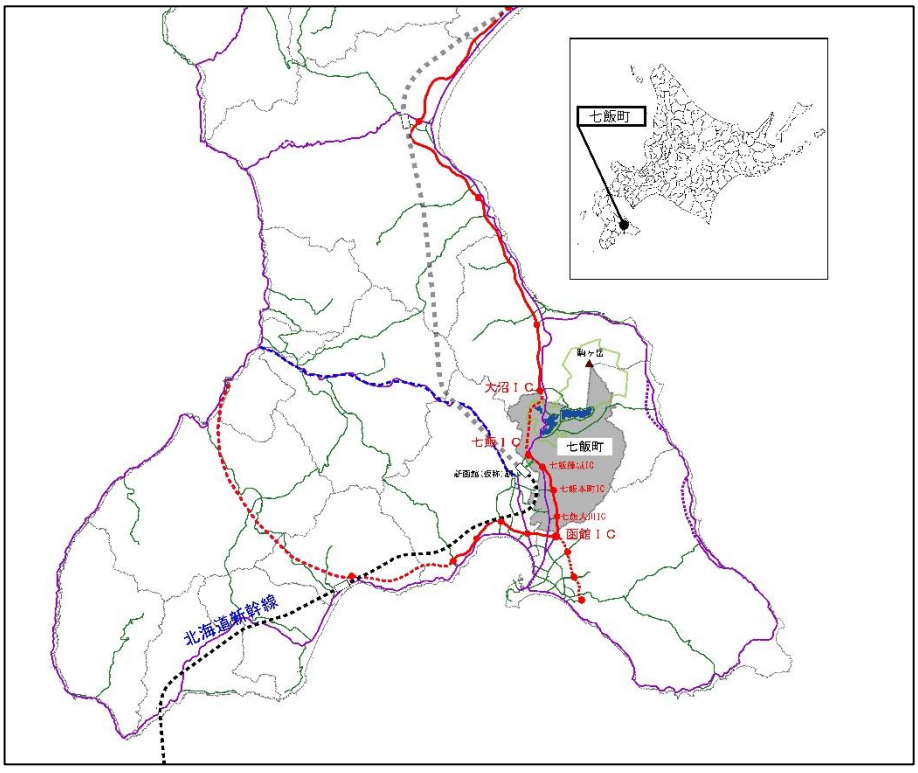
北方は宿野辺川を境に森町に、北東は雨鱒川を境に鹿部町に、南東は横津岳の山頂より蒜沢川を境に函館市に、南西側は北斗市にそれぞれ接しています。

また、七飯町は大沼トンネルを境に北部と南部に別れ、北部の大沼地区は、大沼国定公園を有し、公園入口は市街地が形成されており、それに接続する平坦地は水田、山麓一帯には酪農・畑作地帯が広がっています。

南部は、ほぼ中央を国道５号が縦断しており、国道沿線は市街地として開発が進んでいますが、西側の平野部は水田、東側の丘陵部は畑作・果樹地帯となっています。

位　置（役場所在地）		広ぼう	
東 経	北 緯	東 西	南 北
140° 41′ 39″	41° 53′ 43″		
北海道亀田郡七飯町本町６丁目１番１号			
標高 78m		23.2 ㎞ 東　東経 140° 47′ 34″ 西　東経 140° 34′ 52″	20.2 ㎞ 南　北緯 41° 49′ 01″ 北　北緯 42° 04′ 18″

（七飯町総務課）



2.七飯町の自然

七飯町は、駒ヶ岳をはじめ大沼、小沼などの雄大な地形と自然環境に恵まれた「大沼国定公園」を有する道内でも数少ない豊かな自然を背景にしている町です。先史時代からの遺跡も多く発掘され、早くから人々の交流があったことがうかがえます。江戸時代あたりから幕府が蝦夷地に関心を示し、七飯は交通の要衝として開けてきました。従って北海道では早くから開けた地域であり、明治期には北海道開拓史が置かれ、ガルトネルによる西洋農法を引き継いだ七重官園は、寒冷地での農作物の研究や牧畜の飼育や加工技術等で後の北海道開拓に多くの足跡を残しました。明治天皇の行幸に際し植えられた赤松並木は、現在「赤松街道」と呼ばれる立派な松並木に成長し、昭和 61 年には建設省（現国土交通省）の「日本の道 100 選」に選定されました。また、平成 24 年度 7 月には、大沼がラムサール条約湿地の登録地となりました。

3.七飯町の面積

平成 22 年における七飯町の行政区域の面積は 21, 661ha、都市計画区域の面積は 3, 230ha、市街化区域の面積は 567ha です。

（単位：ha）

区 分		昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
面積	行 政 区 域	21,333	21,333	21,661	21,661	21,661	21,661	21,661
	都市計画区域	3,230	3,230	3,230	3,230	3,230	3,230	3,230
	市 街 化 区 域	450	461	479	492	492	505	567
	人口集中地域	―	―	―	255	252	245	245

4.七飯町の気候

七飯町の気候は、降水量は少なく、北海道では最も温暖な気候に恵まれています。また、四季の区別がはっきり感じられる良好な自然環境を有しています。

年 次	気温（℃）			降水量（mm）		平均風速	積雪（cm）
	平 均	最 高	最 低	総 量	日最大	(m/s)	最深積雪
H24.1月	-4.3	4.5	-14.7	55.0	16.5	3.5	37
2月	-3.9	5.2	-13.0	118.0	13.5	3.7	91
3月	1.0	11.9	-7.5	74.5	14.0	3.8	68
4月	7.0	22.4	-5.7	47.5	11.0	3.6	1
5月	12.6	21.5	5.8	114.0	51.0	3.3	-
6月	15.7	26.0	7.8	47.0	25.0	3.3	-
7月	20.7	32.0	14.8	55.0	29.5	2.9	-
8月	24.1	32.0	15.0	83.0	33.0	2.5	-
9月	22.5	32.6	12.1	194.0	55.0	3.1	-
10月	13.5	23.8	3.1	136.0	40.0	3.8	-
11月	6.3	16.3	-3.0	220.5	43.5	4.0	10
12月	-1.7	11.6	-11.9	84.0	12.5	4.3	28

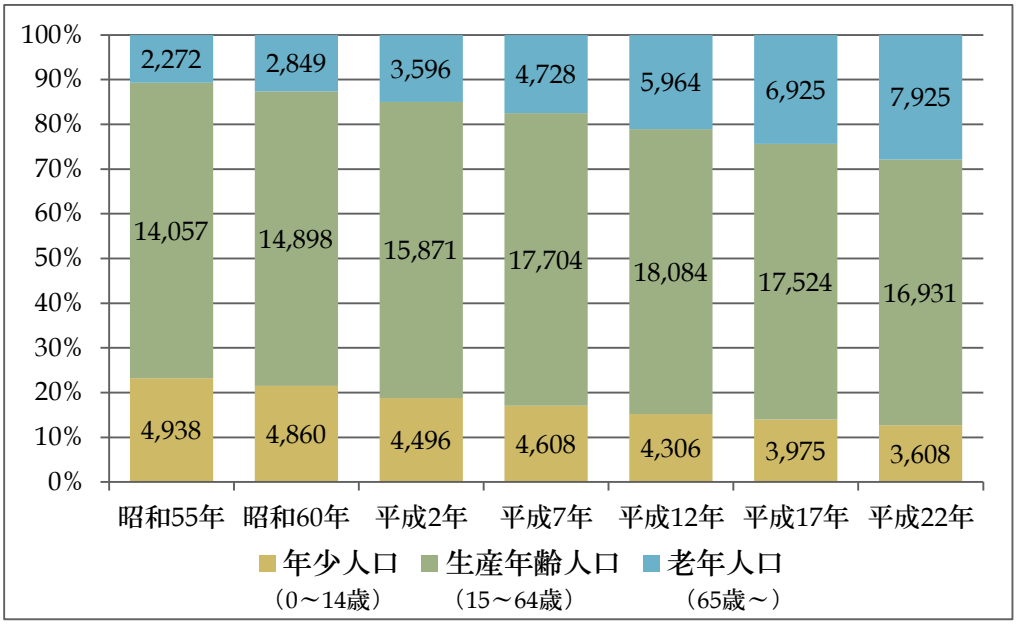
（函館海洋気象台）

5.七飯町の人口

七飯町の人口は、昭和 55 年の 21,267 人が平成 22 年では約 1.3 倍の 28,464 人に増加していますが、平成 12 年からはほぼ横ばいの状況となっています。市街化区域の人口も同じく 10,335 人が、約 1.9 倍の 19,401 人に増加していますが、平成 7 年以降伸びが鈍化してきています。また、年齢 3 区分別人口でみると、生産年齢人口は、平成 12 年までは増加していましたが、平成 17 年以降では減少に転じており、15 歳未満の年少人口の割合は、昭和 55 年の 23.2%から減少が続いて平成 22 年では 12.7%、65 歳以上の老年人口の割合は、昭和 55 年の 10.7%から増加が続いて平成 22 年では 27.8%となっており少子高齢化が進行しています。

区分		昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
人口	行政区域	21,267	22,607	23,963	27,040	28,354	28,424	28,464
	都市計画区域	15,739	17,127	18,751	21,602	22,856	23,069	23,331
	市街化区域	10,335	11,997	14,172	16,953	18,130	18,705	19,401
	人口集中地域	－	－	－	11,426	11,900	12,144	13,069

（国勢調査）



6.七飯町の産業

◎農業

七飯町は、明治2年プロシア人（現ドイツ）R．ガルトネルが洋種農作物の西洋りんご等の栽培を行ったのが契機となり、“西洋農法発祥の地”として現在の北海道農業の基盤となっており、北海道の畑作物の代表といえるじゃがいもの“男爵いも”発祥の地でもあります。近年はカーネーションをはじめとする花き栽培も盛んに行われおり、果樹・野菜・花きの生産が盛んです。

また現在は、農薬に頼らないマリーゴールドによる合理的な輪作体系等によりクリーン農業の体制づくりを推進しています。

◎観光

大正4年に新日本三景の一つに選ばれた北海道を代表する景勝地である大沼国定公園を中心に自然と景観に恵まれており、全国から観光客が訪れています。

近年は、社会経済の変化とも相まって観光入込数の減少傾向が続き、厳しい状況となっており、今後は、北海道新幹線・北海道縦貫自動車道の開通を見据えた通過型観光から滞在型観光への移行が課題となっています。

観光入込調査

（単位：人・%）

年 度	総　数	道　内	道　外	日帰り	宿　泊	前年比
平成12年	2,417,317	1,043,999	1,373,318	2,262,758	154,559	△12.4
平成14年	2,676,497	1,429,902	1,246,595	2,482,594	193,903	△ 0.4
平成16年	2,144,515	687,710	1,456,805	1,963,740	180,775	△ 6.0
平成18年	2,089,304	779,306	1,309,998	1,991,203	98,101	1.0
平成20年	1,831,852	672,876	1,158,976	1,755,361	76,491	△12.1
平成22年	1,578,683	534,789	1,043,894	1,518,783	59,900	△ 4.8
平成24年	1,777,710	610,181	1,167,529	1,711,916	65,794	15.9

（七飯町商工観光課）

◎工業

七飯町の工業は近年事業所数や従業者数に大きな変化はありませんが、出荷額にはやや波がある状況となっています。また、昭和48年に道内初のＩＣ工場が七飯町で操業したことから先端技術産業が発達しており、昭和59年に「テクノポリス函館」の地域指定をきっかけに本州からの先端技術産業を中心とした企業誘致を展開していますが、現在は、自然環境、良質な水資源等の地域特性を活かした企業誘致を進めています。

工業統計調査

（単位：社・人・万円・％）

年　次	事業所数	従業者数	出　荷　額	前 年 比	備　考
平成 12 年	38	1,572	5,241,088	31.6	４人以上の事業所
平成 14 年	41	1,563	3,233,550	△21.9	４人以上の事業所
平成 16 年	33	1,264	3,702,759	△38.3	４人以上の事業所
平成 18 年	31	1,117	3,108,196	17.0	４人以上の事業所
平成 20 年	30	1,109	3,164694	△20.6	４人以上の事業所
平成 21 年	28	1,213	2,528,715	△20.1	４人以上の事業所
平成 22 年	25	1,024	2,914,133	15.2	４人以上の事業所

（工業統計調査）

◎商業

七飯町は、商店街形成された地区はなく、食料品等を中心に経営規模の小さい個人商店が大半を占めています。近年、同一生活圏である函館市、北斗市等へ大型店・チェーン店が進出し購買力が流出しており、平成 14 年以降商品販売額は減少傾向にあります。

商業統計調査

（単位：店・人・万円）

	昭和 63 年	平成 3 年	平成 6 年	平成 9 年
商　店　数	200	200	186	182
従　業　者　数	911	1, 090	1, 095	1, 108
商　品　販　売　額	1, 525, 905	2, 218, 765	2, 450, 892	2, 530, 420
	平成 11 年	平成 14 年	平成 16 年	平成 19 年
商　店　数	217	210	203	195
従　業　者　数	1, 392	1, 436	1, 621	1, 213
商　品　販　売　額	2, 662, 518	2, 688, 615	2, 319, 092	2, 280, 473

（商業統計調査）